

介護総合演習における合同授業が介護実習に 及ぼす影響について

藤 井 園美子・薦 田 美貴世・植 谷 澄 子・岩 永 十紀子
荒 谷 友里恵・田 村 充・黒 木 ひとみ

はじめに

1987(昭和62)年, 社会福祉士及び介護福祉士法の創設により, 介護福祉士養成カリキュラムは1500時間(介護実習450時間)でスタートした。2000(平成12)年には, 教育内容の充実化として介護過程が150時間増加となり, 総時間が1650時間(介護実習450時間)に改正された。その後, 2009(平成21)年度の介護福祉士養成カリキュラム改訂において「介護」, 「人間と社会」, 「こころとからだのしくみ」の3領域に統合・再編され, 1800時間(介護実習450時間)となった。

2007(平成19)年度に厚生労働省が示した資料(「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」)において, 実習施設・事業所等(I)のねらいは, 「利用者の生活の場である多様な介護現場において, 利用者の理解を中心とし, これに併せて利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践, 多職種協働の実践, 介護技術の確認等を行うこと」に重点をおいた実習(中司2019)¹⁾と位置づけられている。実習施設・事業所等(II)のねらいは, 「1つの実習施設や事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で, 利用者ごとの介護計画の作成, 実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践すること」に重点をおいた実習(中司2019)²⁾と位置づけられている。

また, 利用者の生活の場である多様な介護現場において個別ケアを体験・学習できるよう配慮すること, とあり本学は, 2009(平成21)年度から, 7つの種別の実習施設・事業所において介護実習を, 2017(平成29)年度からは8つの種別の実習施設・事業所において介護実習を実施している。従来は1年前期終了時の8月に実施していた介護実習を, 5月下旬頃に変更した。そのため, 入学して2か月足らずで介護実習に臨むことは非常に不安が大きいと考えられることから, 1年生の介護実習に対する不安を軽減するため, 同じ体験をしてきた2年生から1年生へ実習の心構え等についての講義を合同授業として行っている。

本内は, 下級生へのサポートを行うにあたり, 上級生は計画的に集中して学習していた, また, サポートをすることで下級生から頼られ, 教えることの満足感が高まったと考えられる。(木内2019)³⁾

そこで, 教える立場となった2年生は, どのようなことを伝えるために, どのような内容を調べたのか, また, 1年生に講義したことが2年次に行われた介護実習Ⅳに影響があったかについて考察した。

I. 介護福祉士に求められる役割

1. 期待される介護福祉士像

福祉専門職の質の向上を図るため1999(平成11)年, 社会福祉基礎構造改革の「福祉専門職の教育課程等に関する検討会報告書」において期待される介護福祉士像が提言された。

介護福祉士は, 介護に関する専門職として, 次のような資質を身につけることが期待される。

○感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ, 意

令和2年1月6日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)8035 FAX 0877(49)5252
Email fujii@kjc.ac.jp

思疎通をうまく行って介護を必要とする人との信頼関係を築くことができること。

- 要介護者等の状況を判断し、それに応じた介護を計画的に実施しその結果を自ら評価できること。
- 介護を必要とする人の生命や人権を尊重し、自立支援の観点から介護できること。
- 他の保健医療福祉従事者等と連携し、協働して介護できること。
- 資質の向上を図るために自己研鑽とともに後進の育成に努めること。

2. 介護福祉士養成の目標

介護ニーズの変化に合わせた人材を育成する必要があることから、2006（平成18）年「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」が設置され、今後の介護福祉士のあり方につ

いて議論され、（伊藤2019）⁴⁾ 12項目の「求められる介護福祉士像」が示された。

3. 求められる介護福祉士像の見直し

2007（平成19）年度カリキュラム改正時の求められる介護福祉士像が12項目挙げられていたが、平成29年12月18日第20回社会保障審議会福祉部会「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」（福祉人材確保専門委員会報告書）において、社会状況や意識の変容、法律改正などにより、「求められる介護福祉士像」が10項目に改編された。

求められる介護福祉士像に即した養成を行う必要があるため、それに伴い教育内容の見直しもなされた。主な事項としては①チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力

資格取得時の到達目標

1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける
2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
3. 介護実践の根拠を理解する
4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる
5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる
7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養う
8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける
10. 的確な記録・記述の方法を身につける
11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける

介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力

求められる介護福祉士像

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域（在宅）を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

図1 介護福祉士養成の目標

の向上, ④認知症ケアの実践力の向上, ⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上の5項目である。

II. 介護の領域（特に介護実習に関わる）の授業について

介護実習にかかわる授業は、介護実習前・介護実習中・介護実習後に分け、この介護実習前と介護実習後に当たる授業が「介護総合演習Ⅰ」と「介護総合演習Ⅱ」である。介護総合演習の教科書は、介護総合演習（メヂカルフレンド社出版）と、本学が開設当時から加筆修正し、その年度の介護実習要綱をオリジナルで作成し、使用している。

1. 介護実習について

（1）2019年度における1年次の介護実習

1年次の介護実習は、実習段階をⅠ、Ⅱ、Ⅲの大きく3段階に分けて計6回の介護実習を行っている。（表1参照）

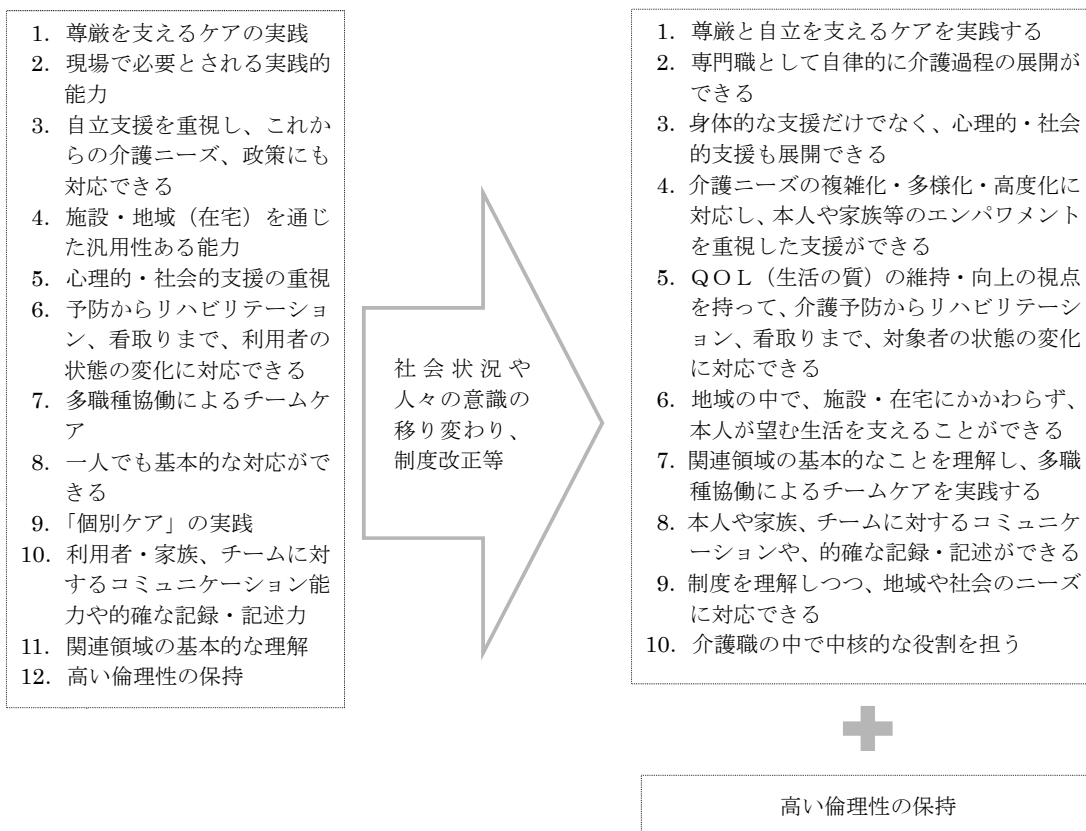
（2）2019年度における2年次の介護実習

2年次の介護実習はⅣのみだが、訪問介護と施設実習の2回に分けて介護実習を行っている。（表2参照）

2. 介護総合演習Ⅰについて

（1）授業概要

介護実習の意義を理解し、実習のイメージを膨らませ、自己の実習目標を明確化する。実習後の振り返りを通して、次の学び、次段階の実習に向けた個別の課題を明確化する。介護実習に向けての心構



出典：社会保障審議会福祉部福祉人材確保専門委員会「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」2017年

図2 「求められる介護福祉士像」の見直し

表1 介護実習Ⅰ，介護実習Ⅱ，介護実習Ⅲの概要

| 実習段階 | 実習時期・実習期間 | 実習施設・事業所 |
|-------|------------------------|----------------------------------|
| 介護実習Ⅰ | 2019年5月27日～29日（3日間） | 通所介護 |
| | 2019年6月27日～29日（3日間） | 認知症対応型共同生活介護 |
| | 2019年6月27日～29日（4日間） | 小規模多機能型居宅介護 |
| 介護実習Ⅱ | 2019年10月29日～11月2日（5日間） | 特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 障害者支援施設 |
| | 2019年12月9日～13日（5日間） | 障害者支援施設（知的・精神障害） |
| 介護実習Ⅲ | 2020年2月3日～21日（15日間） | 特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 障害者支援施設 |

表2 介護実習Ⅳ（訪問・施設）の概要

| 実習段階 | 実習時期・実習期間 | 実習施設・事業所 |
|-------|---------------------|--|
| 介護実習Ⅳ | 2019年6月12日～14日（3日間） | 社会福祉協議会 訪問介護事業所 |
| | 2019年8月5日～29日（19日間） | 特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 障害者支援施設 救護施設 |

え、事前学習をもとに、事前オリエンテーションを受ける。介護実習で行った介護実践とその評価、介護実習事後報告会を通して、介護福祉士に求められる知識、技術を包括的に整理し、理解を深める。また、自己の介護観についても考察する。

介護実習Ⅲでは、実習期間中に帰校日を設定し、自己の実習課題・目標、介護過程の展開等について個別の学習到達目標に応じた総合的な学習ができるようにする。

（2）授業内容（前期分）

第1回：オリエンテーション、介護実習の意義と目的

第2回：介護実習関連の記録について

第3回：介護実習の体験について（2年生との合同授業）

第4回～第6回：介護実習Ⅰ（通所介護）の事前準備

第7回：介護実習Ⅰ（通所介護）の学内反省会

第8回～第10回：介護実習Ⅰ（認知症対応型共同生活介護）の事前準備

第11回：介護実習Ⅰ（認知症対応型共同生活介護）の学内反省会

第12回：実習内容、実習記録の振り返り

第13回～第15回：介護実習Ⅰ（小規模多機能型居宅介護）の事前準備

合同授業を実施するに当たり、介護実習についての質問や知りたいことを第2回授業の事前学習として、考えておくこととした。また、以下の3項目のアンケートを第2回授業の終了時に実施した。

1. 介護実習へ初めて行く際、どのような情報が知りたいですか。
2. 介護実習へ行く際、不安に思っていることは何ですか。
3. その他、2年生から介護実習に関して聞きたいことがありましたら自由に書いてください。（アンケートの結果は2年生に提示した。）

さらに、第3回授業の事後学習として、2年生から説明を受けた内容について整理しまとめておくこととした。

3. 介護総合演習Ⅱについて

(1) 授業概要

介護実習Ⅳの概要や目的を理解し、自己の実習課題・目標を明確にする。介護実習Ⅳ（施設）は、実習期間中に帰校日を設定し、指導教員による個別指導を行い、個々の学習到達目標に応じた総合的な学習ができるようにする。

学内反省会を通して自己を客観的に振り返り、介護福祉士に求められる資質について考察する。

介護研究の意義を理解した上で「その人らしい生活」を支えるために必要な介護福祉士としての専門的技術・知識について考察し、自己の介護観を培う。

(2) 授業内容（前期分）

第1回：介護実習Ⅲ（1年後期3週間）の記録を振り返る

第2回：1年次の介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを振り返る

第3回：1年生へ介護実習の体験を発表する（1年生との合同授業）

第4回～第8回：介護実習Ⅳ（訪問介護）の事前準備

第9回：介護実習Ⅳ（訪問介護）の学内反省会

第10回・第11回：福祉研究の概要

第12回：福祉就職フェア（学外授業）

第13回～第15回：介護実習Ⅳ（施設）事前準備

第3回合同授業に向けて、第2回授業の際、3項目のアンケート（1年生）結果をもとに、1グループ5名～6名に分かれ、介護実習について1年生に伝える内容を検討した。第2回授業の事後学習と第3回授業の事前学習として発表準備に5時間を当てていた。合同授業のリハーサルについては、学生からの要望により既定よりも1回多く実施した。

第3回授業の事後学習として、発表したことを振り返りレポートにまとめることとした。

4. 第3回合同授業について

合同授業（90分）は2部構成とした。

第1部（約55分）では、挨拶・進行方法の説明後、2年生が4グループに分かれ、1年生に伝えたい内容を冊子にまとめたり、パワーポイントでの説明や、劇を行ったり、それぞれのグループがより分かりやすい方法を考え発表した。

第2部（約35分）では、1年生が介護実習に臨む

事業所ごとに昨年実習を終了した2年生（同じ事業所）と個別面談を30分行い、その後本授業のまとめ（5分）を行った。

Ⅲ. 研究方法

1. 本研究の目的

初めて介護実習に臨む1年生に対して、2年生が今までの介護実習の学びや授業で学んだことを、グループワークを通して伝えることにより、どのような学びがあったか、2年次の介護実習Ⅳにおいてどのようなことに役立ったかを明らかにする。

2. 調査の方法

(1) 調査対象：本学生活文化学科 生活介護福祉専攻2年生（23名）

(2) 調査期間：2019年10月

(3) 調査内容及び項目：無記名自記式を活用し、集合調査とした。

質問項目1：1年生にどのようなことを伝えようと思いましたか。

質問項目2：1年生に伝えるに当たって、どのようなことを調べましたか。

質問項目3：1年生に介護実習について伝えたことは、介護実習Ⅳにおいて役立ちましたか。

質問項目4：他に1年生に伝えるとよかったと思うことはありますか。

質問項目5：今回の合同授業は、卒業後に役立つかと思いますか。どのようなときに役立ちますか。

3. 分析方法

本学2年生23名に無記名式アンケートを実施し、回収率：100%、有効回答数：23件のデータを用いた。データの解析にはExcelを用いて、単純集計した。質問項目3の自由記述は、記述内容をKJ法で整理し、カテゴリー集計した。

4. 倫理的配慮

本学2年生に研究目的を明示し、調査の趣旨について協力者の理解を十分得ること、個人が特定され

ないようにすること、データの厳重な保管、調査により得られた結果は研究目的以外には使用しないこと、回答の協力は任意であることを明示し、質問紙の回答をもって同意を得たものとみなした。

IV. 結果

1. 1年生にどのようなことを伝えようと思ったか。(複数回答可)

質問項目1は、「実習の心得」17名(73.9%)、「高齢者との接し方」16名(69.6%)、「身だしなみ」13名(56.5%)、「言葉遣い」12名(52.2%)、「コミュニケーションの回り方」12名(52.2%)、「敬語の使い方」12名(52.2%)、「実習指導者からの指導の受け方」12名(52.2%)の項目は50%以上と高かった。(図3参照)

2. 1年生に伝えるに当たって、どのようなことについて調べたか。(複数回答可)

質問項目2は、介護実習要綱17名(73.9%)と最

も高く、次いで、「介護総合演習の教科書(実習の意義・目的・内容、事前準備、実習の心構え)」11名(47.8%)、「1年次の実習記録」11名(47.8%)、「昨年自分たちが受けた合同授業の資料で何を教わったか」10名(43.5%)であった。逆に、「社会福祉士及び介護福祉士法等の法律」、「事業所の概要・機能・役割・介護内容」、「利用者の秘密保持について」、「自立支援について」は、0名であった。「その他」の意見として6名(27.4%)、「自分自身の体験談を踏まえて行った」、「実習体験をもとに、実際指導されたこと」等であった。(図4参照)

3. 1年生に介護実習について伝えたことは、介護実習Ⅳにおいて役立ったか。

質問項目3は、23名(100%)全員が「はい」と答えた。

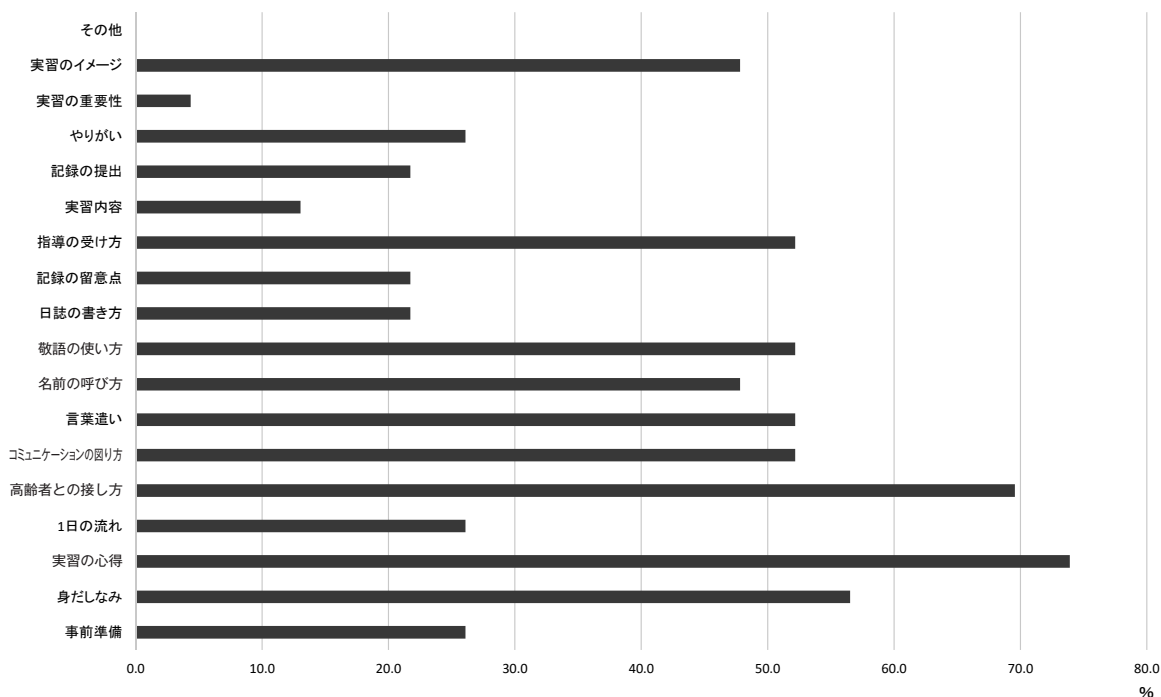


図3 1年生にどのようなことを伝えようと思ったか

(1) どのようなことが役立ったか。(複数回答可)

「実習における心得」19名(82.6%),「コミュニケーションの図り方」17名(73.9%),「利用者と接する時の留意点」15名(65.2%),「敬語について」14名(60.9%)の3項目において60%を超えていた。「記録の書き方」8名(34.8%),「介護目標の立案の時」6名(26.1%),「利用者の秘密保持について」5名(21.7%),「精神面の強さ」5名(21.7%),「多職種との連携」4名(17.4%),「生活習慣の大切さ」3名(13.0%)であった。逆に、「社会福祉士及び介護福祉士法等の法律」,「自立支援について」は0名であった。(図5参照)

(2) 特に役立った内容について

具体的に書いた自由記述32について回答をカテゴリー化し、KJ法で分析を行った。記述について、表記は《 》でくられたものをカテゴリー,【 】でくられたものをサブカテゴリー,〔 〕でくられたものをコードとした。

カテゴリーは《基本事項(心構え)》と《学習内容》の2つに分類した。

《基本事項(心構え)》のサブカテゴリーとして,【身だしなみ等心得】,【利用者・家族への態度】,【実習指導者・職員への態度】,【言葉遣い】,【時間管理能力】の5つに分類した。

《学習内容》のサブカテゴリーとして,【実習記録】,【介護過程】,【コミュニケーション】,【全人的ケア】,【チームケア】の5つに分類した。

《基本事項(心構え)》において,【身だしなみ等心得】は[持ち物,メモ帳持参],[実習の心得],[利用者・家族への態度]は[利用者と接する時の関わりの基本姿勢],[実習指導者・職員への態度]は[自己判断せず指導者に聞く],[職員との関わり方],[言葉遣い]は[職員への質問の仕方][時間管理能力]は[自分がどう動くべきか],[指導者との日程調整]で合計14の項目となった。

《学習内容》において,【実習記録】は[実習記録の書き方],[目標立案,考察の考え方],[介護過程]は[介護計画作成時のコミュニケーション],[アセスメント時の話題の持ち方],[コミュニケーション]は[受容・共感の大切さ],[コミュニケーション]

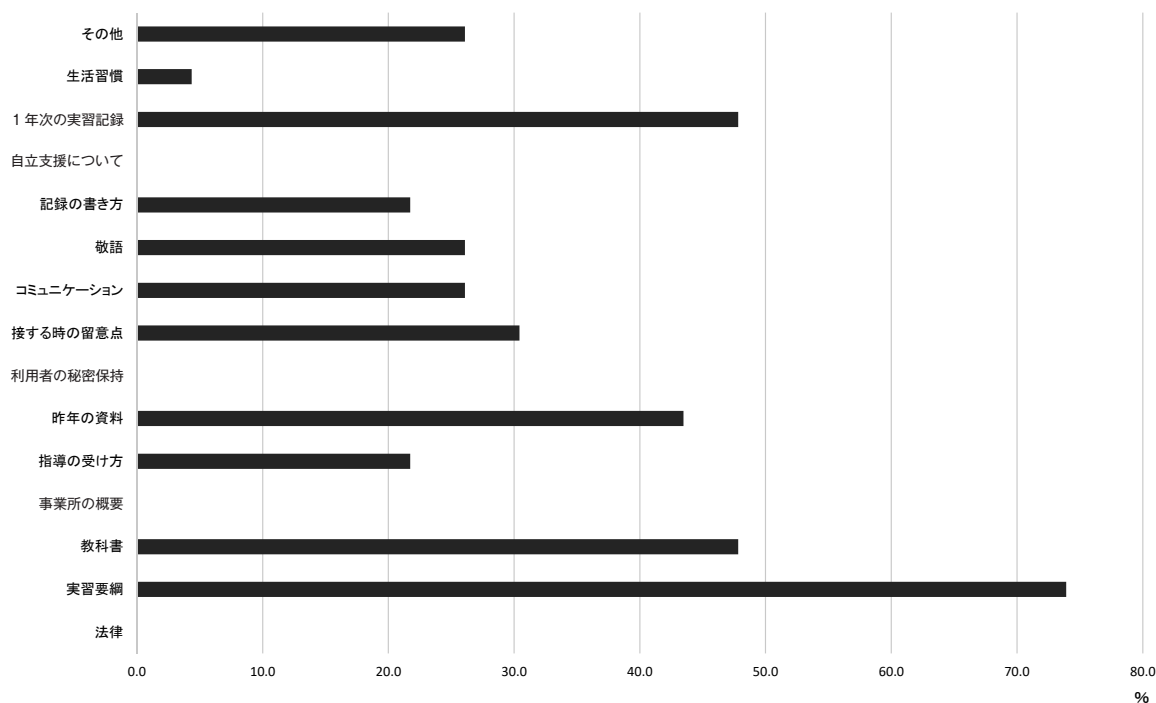


図4 1年生に伝える当たってどのようなことについて調べたか

ション技術], 【全人的ケア】は [生活歴の大切さ], 【チームケア】は [看護職と介護職, ケアマネとの話し合い], [自分が何をすべきか], [振り返り] で合計22の項目となった。(表3 参照)

表3 特に役立った内容の分類

| カテゴリー | サブカテゴリー | |
|---------------|--------------|----|
| 基本事項 (心構え) | 身だしなみ等心得 | 2 |
| | 利用者・家族への態度 | 3 |
| | 実習指導者・職員への態度 | 6 |
| | 言葉遣い | 1 |
| | 時間管理能力 | 2 |
| 学習内容 | 実習記録 | 11 |
| | 介護過程 | 2 |
| | コミュニケーション | 5 |
| | 全人的ケア | 1 |
| | チームケア | 3 |

4. 他に1年生に伝えるとよかったと思う内容はあ
るか。

「はい」 5 (21.7%), 「いいえ」 17 (73.9%), 無
回答 1 (4.3%)

5. 今回の合同授業は, 卒業後に役立つと思うか。

「はい」 21 (91.3%), 「いいえ」 2 (8.7%)

どのような時に役立つと思うか。(複数回答可)

「プレゼンテーション」 11名 (47.8%), 「同僚や
先輩に指導を受けるとき」 10名 (43.5%), 「わから
ないことがあるとき, 疑問に思ったとき, 困ったと
きの解決方法を考えるとき」 10名 (43.5%), 「リー
ダーシップやフォロワーシップ」 8名 (34.8%), 「グ
ループワークの持ち方」 8名 (34.8%), 「介護研究
を行うとき」 6名 (26.1%), 「チームマネジメント」
6名 (26.1%), 「介護観の形成」 6名 (26.1%), 「後
輩の育成」 5名 (21.7%), 「レポート作成の方法」
5名 (21.7%), 「他職種との連携」 4名 (17.4%),
「自己研鑽の方法」 3名 (13.0%), 「利用者及び家
族への指導」 3名 (13.0%), 「チーム運営」 2名
(8.7%), 「その他」 1名 (4.3%) であった。(図6
参照)

6. 1年生に伝えるに当たって調べたことと, 介護
実習Ⅳにおいて役立ったことの関係について

介護実習Ⅳにおいて, 調べたことが役立ったと答
えた学生は「利用者と接する時の留意点」では7名
のうち5名 (71.4%), 「コミュニケーションの図り
方」では6名中6名 (100%), 「敬語について」で
は6名中6名 (100%), 「生活習慣の大切さ」 1名
中1名 (100%), 「記録の書き方」では5名のうち
3名 (60.0%), 「介護総合演習の教科書 (実習の意
義・目的・内容, 事前準備, 実習の心構え)」 11名
中11名 (100%) が, また, 「介護実習要綱」 17名の
うち16名 (94.1%) が「実習の心得」について役立っ
たと答えている。

V. 考察

1. 1年生にどのようなことを伝えようと思ったか
について

「実習の心得」「高齢者との接し方」「身だしなみ」
「言葉遣い」「コミュニケーションの図り方」「敬語
の使い方」「指導者からの指導の受け方」の項目に
おいて50%以上の高い結果となった。このことは,
1年生の初めての介護実習であること, 介護実習は
学外で行う授業のため社会人として対応する必要が
あること, 自身の体験から実習生として守るべきマ
ナーを伝える必要があると考えたからだと推測す
る。

2. 1年生に伝えるに当たって, どのようなこと
について調べたかについて

介護実習の概要については本学が使用している
「介護実習要綱」と, 「介護総合演習の教科書 (実習
の意義・目的・内容, 事前準備, 実習の心構え)」
において, 介護実習に必要な項目がもれなく記載さ
れているため, 調べ学習を行いやすかったからだ
と考えられる。

「学習」とは学ぶと習うという言葉から成り立っ
ており, 「学ぶ」という言葉は「真似る」と同語源,
「習う」は「倣う」と同語源とされている。(松岡
2013)⁵⁾ すなわち, 学習することは模倣からスター
トする。介護実習を経験している2年生は, まず
「介護実習要綱」を事前に学習し, 昨年教わったこ
とや経験を振り返り, 自分たちの体験をありのまま
に表現することで, 1年生も情景を想像しやすくな

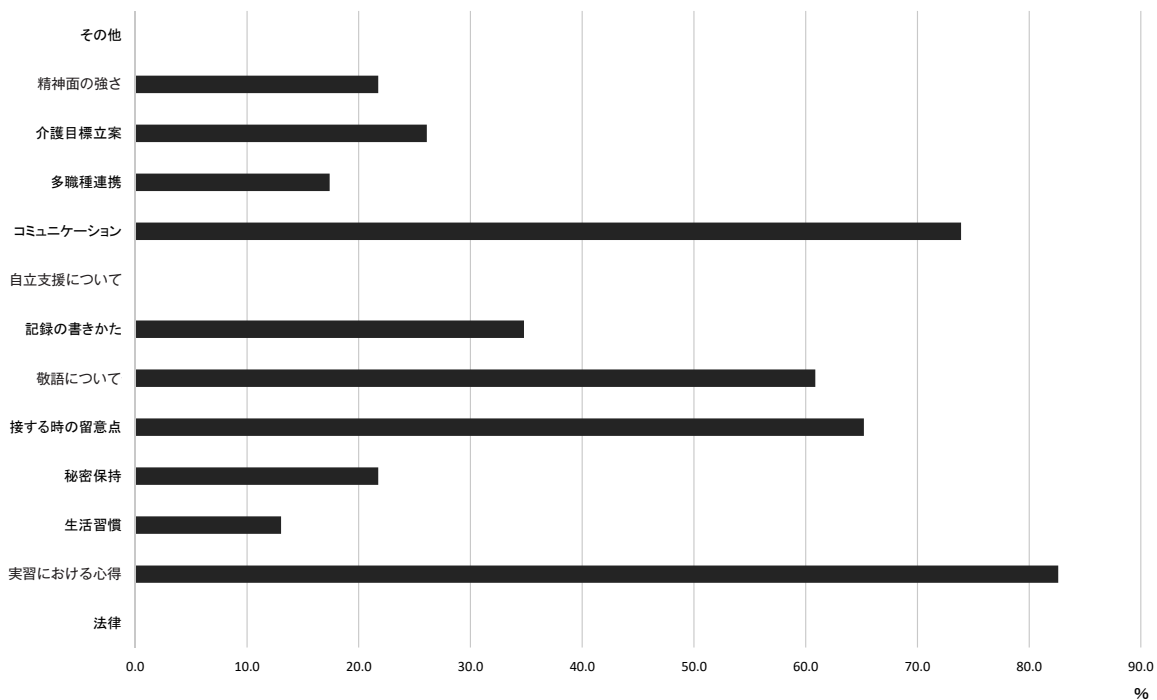


図5 どのようなことが役立ったか

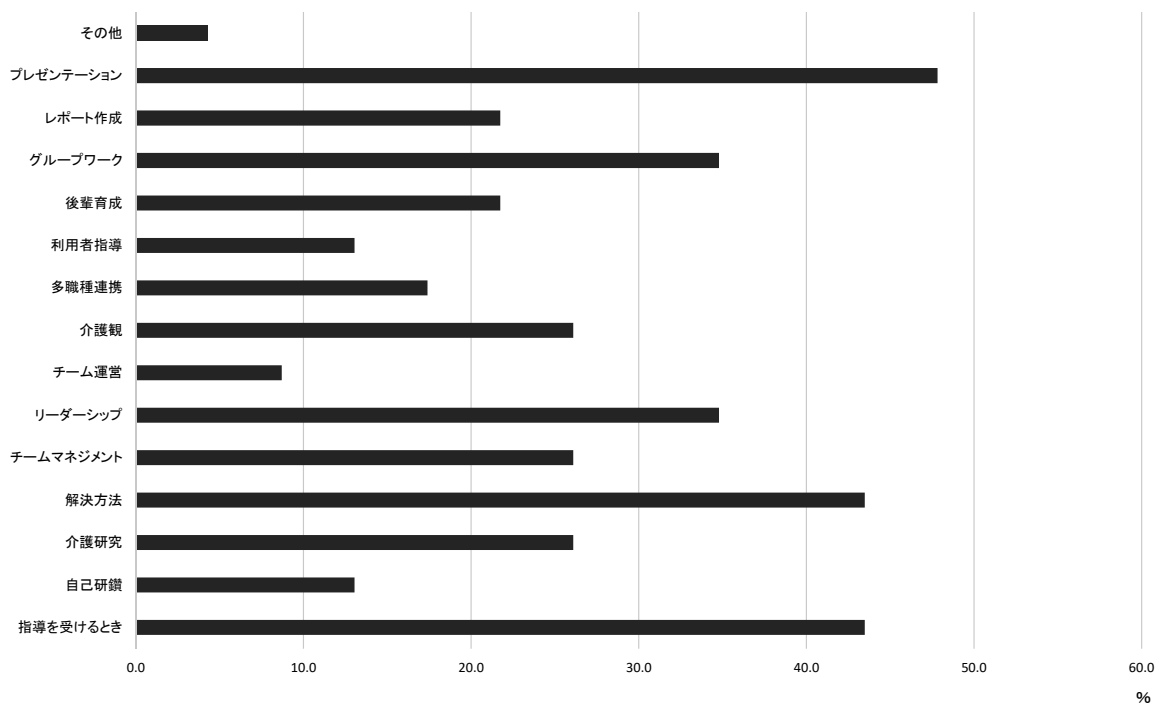


図6 どのような時に役立つと思うか

ると考えたのではないか。

また、「社会福祉士及び介護福祉士法等の法律」，「事業所の概要・機能・役割・介護内容」，「利用者の秘密保持について」，「自立支援について」は，誰も調べた学生はいなかった。法律については，教科書に書かれており1年生自身が自分で学習できることや，「自立支援について」は初めての介護実習において理解しにくい内容であったため，学習しなかったと思われる。

3. 1年生に介護実習について伝えたことは，介護実習Ⅳにおいて役立ったかについて

全員が「はい」と答えており，特に役立った内容として，《基本事項（心構え）》において，【利用者・家族への態度】と【実習指導者・職員への態度】が多く他者とののかかわりの大切さを再確認できた。《学習内容》については，【実習記録】，【介護過程】，【コミュニケーション】の3つのサブカテゴリーにおいて役立ったと答えており，介護実習Ⅳにおける毎日の記録や利用者・家族・施設スタッフとののかかわり，受け持ち利用者の介護過程の展開に大きくかわる内容であった。

高野らは，学年間の交流を通して先輩が後輩を導く相互学習は，学生が主体となり授業を創り上げていくことに繋がる（高野2011）⁶⁾と述べている。今回の介護総合演習の合同授業で2年生が，介護実習Ⅳにおいて役に立ったと全員が答えたのは，1年生に講義をするに当たって，自主的に授業時間外において調べ学習を行ったり，発表準備としてリハーサルを行い，1年生に介護実習の必要性や楽しさを理解してもらうための工夫を積み重ねたことで2年生は，主体的に行動をとり，介護過程の展開においても創造性を発揮することができ介護実習Ⅳをスムーズに進めることができたと考ええる。

求められる介護福祉士像において，「専門職として自律的に介護過程の展開ができる」と示されている。また，教育内容の見直しの主な事項の1つに，「介護過程の実践力の向上」があり，介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応するため，各領域で学んだ知識と技術を領域「介護」で統合し，アセスメント能力を高め実践力の向上を図るとされている。

今回の合同授業の準備において，介護総合演習の教科書はもとより，介護実習時に学習した内容や参考にした介護の基本や生活支援技術，社会の理解等の教科書，また，昨年の合同授業の資料や介護実習の記録物等で学んだことの復習や確認を行った。このことは自分で調べる楽しさや，自分の思いが伝わった時の喜びとなり，さらにはアセスメント能力を高めることや各領域で学んだ知識と技術の統合につながり，介護実習Ⅳにおいて自律性が高められたと考えられる。

5. 今回の合同授業は，卒業後に役立つと思うかについて

求められる介護福祉士像において「本人や家族，チームに対するコミュニケーションや，的確な記録・記述ができる」とあり，今回は，グループワークで準備を進めたことで，グループ内でコミュニケーションを図りながら，自分たちの考えや思いを自分たちの言葉で他者に伝えることや，他者の意見を受け入れ，納得するまで議論を重ねたことにより，チームマネジメントの必要性を感じることができた。また，1年生にその時間だけの学びにならないよう記録に残す作業を行ったことで，リーダーシップやフォロワーシップのあり方も学習できたと考える。

習うだけではなく，常に知識を応用するという姿勢を生徒たちに持たせるようにする。そうすることで新しい知識を単に理解し，記憶するのではなく，常に応用，発展を意識した姿勢が形成され，豊かな創造性の発言につながるものと期待される。（松岡2013）⁷⁾ 学生は，疑問に思ったり，自分が困ったりした時にどのような方法で解決すればいいかについて考えたことは，教科書通りにいかないことや，学んだことを応用する必要に迫られ創造性につながったと思われる。

「グループによる学習」の効果は学習理解を深めることはもとより，学習者はお互いに協力し合って「学び」の意欲を高め，活気づいて学習に取り組む（高橋2008）⁸⁾としている。

合同授業の準備として，グループワークで作業を進めてきたことは，「教える」ためには，まず自分たちが学ぶことが必要となる。学ぶ姿勢をグループ

の個々人が励ましあいながら行ったことで、リーダーシップやフォロワーシップ、グループワークの持ち方、チームマネジメント、後輩の育成などが卒業後に役立つと考えたとと思われる。また、グループごとに発表した体験は、プレゼンテーションにも役立つと思われる。

求められる介護福祉士像に即した養成をする必要があるため、教育内容の見直しの主な項目は、先に述べたように①チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、③介護過程の実践力の向上、④認知症ケアの実践力の向上、⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上である。この5項目は、主に介護実習を通じて養う必要があるため、介護実習において実践力が身につくよう現在行われている介護総合演習における合同授業のように、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を受け入れ自分の考えと比較し判断できる力を養う授業展開を行っていく必要がある。

松尾らは、グループ学習のメリットについて3つあると述べている。その中の1つに、

ロ. 多様な見方や考え方を知ることができる

一斉学習では生徒から多くの意見が出るも、このうち、クラスで共有できるのはごくわずかである。またこれらはたいいてい、教師が「必要である」と感じた、正解に通じるような考えや意見であって、せっかく貴重な考えをしている生徒がいても気づかれないうちに見過ごされてしまうことが多い。これに対してグループ学習では、解決の段階で議論を重ねるので、様々な見方や考え方をグループで共有しやすく、その結果クラス全体が多様な意見を知ることができる。(松尾2010)⁹⁾と述べており、自分の考えをクラス全員の前で発言できなかったり、1人で考えても創造が広がらなかった学生も、グループ内で意見交換し、励まし励まされたことで、自信がつき頑張ろうという意欲を持つことができたと考えられる。

後輩学生に学習を支援した効果が、知識・技術の定着、不安の軽減や自己効力感の向上のみにとどまらず、今後自分にとって必要な対処や学習方略を具現化するまでに至った(三好ら2014)¹⁰⁾と述べられており、「自己研鑽の方法」に役立つ、「わからない

ことがある時、疑問に思った時、困った時の解決方法を考えるとき」に役立つと答えたことは、自分の学習方略を見出せたと考える。

6. 1年生に伝えるに当たって調べたことと、介護実習Ⅳにおいて役立ったことの関係について

今回のアンケート内容において、1年生に伝えるに当たって、どのようなことについて調べたかの項目と、1年生に介護実習について伝えたことは、介護実習Ⅳにおいて役立ったかの項目の表現に相違があったことや足りなかった項目等があり、学生は混乱した項目があったと思われるが、「利用者と接する時の留意点」、「コミュニケーションの回り方」、「敬語について」、「生活習慣の大切さ」を調べた学生全員が介護実習Ⅳにおいて役立ったと答えており、これらの項目は、対人関係を基盤とする職業の基本であり、常に心掛けて実践する必要があると考えていたからだと推測する。

また、事前の調べ学習として「介護実習要綱」または「介護総合演習の教科書」を調べた学生のほとんどが「実習における心得」に役立ったと答えているのは、「介護総合演習(実習の意義・目的・内容、事前準備、実習の心構え)」の教科書と「介護実習要綱」の両方に実習における心得が記載されていたからだと思われる。

吉田らは、「上級生は、教える者としての責任意識をもち、教えることのやりがいを感じることができた」と述べている。(吉田2014)¹¹⁾このことから、2年生が1年生に教えるに当たって、基本となる教科書や、介護実習要綱を調べ直す作業は、1年生の時の不安な気持ちと頑張ろうという初心の気持ちに立ち返ることができたことにより、正確に調べることの重要性に気づき、責任意識が芽生え、教えることをやりがいと感じ、自己成長へとつながり、介護実習Ⅳにおいて役立ったといえる。

Ⅵ. 今後の課題

今回のアンケートにおいて、同一の表現で比較できなかった項目があり、信憑性に欠ける点があったため、アンケート項目については、何を明らかにしたいのかを考えていきたい。

VII. まとめ

今回2年生が1年生に講義を行った結果、以下の点について明らかになった。

- ・自分自身の体験から実習生として、守るべきマナーを伝えることができた。
- ・基本となる教科書、介護実習要綱を用いて学習し、1年次の体験も踏まえて伝えられた。
- ・グループワークすることにより、学習意欲が向上し学ぶ姿勢が培われた。
- ・グループの個々人が励ましあいながら行うことで、リーダーシップやフォロワーシップについて学ぶことができた。
- ・チームマネジメントの必要性を考えることができた。
- ・後輩の育成の必要性を学ぶことができた。
- ・後輩に教えることにより知識が定着し、自信を持つことができた。
- ・教えることで責任意識をもち、やりがいを感じることもできた。

上記のことを踏まえ、今後も2年生から1年生への合同授業を継続し、介護実習以外の授業における学習意欲も高めていきたい。

謝 辞

本研究にあたり、調査にご協力いただきました本学生生活文化学科 生活介護福祉専攻2年生の皆様に心から感謝申し上げます。

引用文献・参考文献

- 1) 介護福祉士養成講座編集委員会（中司登志美），2019，最新介護福祉士養成講座介護総合演習・介護実習，中央法規出版株式会社，p24
- 2) 介護福祉士養成講座編集委員会（中司登志美），2019，最新介護福祉士養成講座介護総合演習・介護実習，中央法規出版株式会社，p28
- 3) 木内有美，2015，学習サポートが学習意欲と学校生活不安感に及ぼす影響，日本看護学校協議会学会Vo27，p169
- 4) 介護福祉士養成講座編集委員会（伊藤優子），2019，最新介護福祉士養成講座介護の基本Ⅰ，中央法規出版株式会社，pp90-91
- 5) 松岡守，2013，学習過程における模倣と創造，日本知財学会誌，Vol.9No.3，p41
- 6) 高野真由美，松本佳子，山之井麻衣，2011，先輩が後輩を導く老年看護方法演習の相互学習効果，川崎市立看護短期大学紀要16（1），p70
- 7) 松岡守，2013，学習過程における模倣と創造，日本知財学会誌，Vol.9No.3，pp47-48
- 8) 高橋寿夫，2008，授業の活性化に向けてーグループによる学生参加型授業の実践的考察，外国語教育フォーラム第7号，p26
- 9) 松尾吉陽，野島淳司，2010，グループ活動の実践とその意義についての位置考察ー2次関数の活用の授業を通してー，東京芸術大学附属小金井中学校『研究紀要』第46号，p85
- 10) 三好雅之，谷村千華，野口佳美，2014，後輩学生への学習支援が4年次看護学生に及ぼす効果，米子医誌J Yonago Med Ass 65，p126
- 11) 吉田和美ら，2014，看護技術力向上を目指した学習サポート制度における上級生の学びと本制度の課題，日本赤十字広島看護大学，14，p81

資料1 介護総合演習における合同授業が介護実習に及ぼす効果についてのアンケート（2年生）

No.1

アンケート調査ご協力をお願い

この度、介護総合演習における合同授業が介護実習にどのような効果が得られたかを把握するためにアンケート調査を行いますので、ご協力お願いいたします。調査内容は、教育研究のみに使用し、得られたデータは個人が特定されないように処理します。また、成績等には一切影響しないことを約束します。

1. 1年生にどのようなことを伝えようと思いましたか。当てはまる項目すべてに○をつけてください。

- ・事前準備(事前オリエンテーション等) ()
- ・身だしなみ ()
- ・実習の心得 ()
- ・通所介護の1日の流れ ()
- ・高齢者との接し方 ()
- ・コミュニケーションの図り方 ()
- ・言葉遣い ()
- ・名前の呼び方 ()
- ・敬語の使い方 ()
- ・実習日誌の書き方 ()
- ・記録を書く際の留意点 ()
- ・実習指導者からの指導の受け方 ()
- ・実習内容 ()
- ・記録物の提出について ()
- ・実習のやりがい ()
- ・介護福祉士になるに当たっての介護実習の重要性 ()
- ・実習の大まかなイメージ ()
- ・その他 ()

2. 1年生に伝えるに当たって、どのようなことについて調べましたか。当てはまる項目すべてに○をつけてください。

- ・社会福祉士及び介護福祉士法等の法律 ()
- ・介護実習要綱 ()
- ・介護総合演習の教科書(実習の意義・目的・内容、事前準備、実習の心構え) ()
- ・事業所の概要・機能・役割・介護内容 ()
- ・指導者からの指導の受け方 ()
- ・昨年自分たちが受けた合同授業の資料で何を教わったか ()
- ・利用者の秘密保持について ()
- ・利用者と接する時の留意点 ()
- ・コミュニケーションの図り方 ()
- ・敬語について ()
- ・記録の書き方 ()
- ・自立支援について ()
- ・1年次の実習記録 ()
- ・生活習慣の大切さについて ()
- ・その他 ()

3. 1年生に介護実習について伝えたことは、介護実習Ⅳにおいて役立ちましたか。

①はい () ②いいえ ()

①はいと答えた方は、どのようなことが役立ちましたか。当てはまる項目すべてに○をつけてください。また、特に役立った内容を具体的に書いてください。

- ・社会福祉士及び介護福祉士法等の法律 ()
- ・実習における心得 ()
- ・生活習慣の大切さ ()
- ・利用者の秘密保持について ()
- ・利用者と接する時の留意点 ()
- ・敬語について ()
- ・記録の書き方 ()
- ・自立支援について ()
- ・コミュニケーションの図り方 ()
- ・多職種との連携 ()
- ・介護目標の立案の時 ()
- ・精神面の強さ ()
- ・その他 :

具体的な内容

4. 他に1年生に伝えるとよかったと思う内容はありますか。

①はい () ②いいえ ()

①はいと答えた方は、どのような内容ですか。具体的に書いてください。

5. 今回の合同授業は、卒業後に役立つと思いますか。

①はい () ②いいえ ()

①はいと答えた方は、どのような時に役立つと思いますか。当てはまる項目すべてに○をつけてください。

- ・同僚や先輩に指導を受けるとき ()
- ・自己研鑽の方法 ()
- ・介護研究を行うとき ()
- ・わからないことがあるとき、疑問に思ったとき、困った時の解決方法を考えるとき ()
- ・チームマネジメント ()
- ・リーダーシップやフォロワーシップ ()
- ・チーム運営 ()
- ・介護観の形成 ()
- ・多職種との連携 ()
- ・利用者及び家族への指導 ()
- ・後輩の育成 ()
- ・グループワークの持ち方 ()
- ・レポート作成の方法 ()
- ・プレゼンテーション ()
- ・その他 :

6. 基本情報について

性別 男性 () 女性 ()

年齢 20歳未満 () 20歳代 () 30歳代 () 40歳代 () 50歳代 ()

ご協力ありがとうございました。